

あしたの風

編集・発行：男女共同参画あきたF・F推進員、大湯村

2022.3 発行

みんなで目指そう！ SDGs×ジェンダー平等

SDGsとは？

SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）とは、世界で広がる貧困と格差、地球環境の危機を克服し、「持続可能な社会・経済・環境」に転換することを目指す、世界共通の目標です。2015年に国連で開催された「持続可能な開発サミット」で、日本も賛同し、国連加盟国193カ国の首脳が全会一致で採択しました。2030年という達成期限を設け、17のゴールと169のターゲットにすべての国が取り組むことを約束しています。

日本はSDGs達成度ランキングにおいて、国連加盟国中18位となっています。教育や公衆衛生での評価が高い一方で、ジェンダー平等が課題であるとされています。

ジェンダー平等とは？

「ジェンダー平等」とは、ひとりひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆる物事を一緒に決めることができることを意味しています。男性と女性は、身体づくりは違いますが、平等です。ところが、今の社会では、男性に向いている役割や責任、女性に向いている役割や責任など、個人の希望や能力ではなく「性別」によって生き方や働き方の選択肢や機会が決められてしまうことがあります。そこで、世界中で、法律や制度を変えたり、教育やメディアを通じた意識啓発を行うことで、社会的・文化的に作られた性別（ジェンダー）を問い直し、ひとりひとりの人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会を創るための取組が行われています。同時に、「女性だから」という理由で直面する障壁を取り除き、自分の人生を自分で決めながら生きるための力を身につける取組（エンパワーメント）も行われています。「ジェンダーの平等と女性・女の子のエンパワーメント」は、SDGsの重要なテーマで、また、日本では「男女共同参画社会基本法」で21世紀の最重要課題と位置付けています。





SDGsのゴールとジェンダー平等の関わりを知ろう！

ジェンダー平等は、すべての目標に関わっています。だからこそ、それぞれの目標について、男女別のデータを分析して、女性と男性にどのような影響があるか、女性と男性が平等に恩恵を受けられるかを考えて、すべての政策、施策、事業を企画・実施していくことが重要です。

今回はどのようにジェンダー平等と関わりがあるか全17の目標を一部抜粋して説明します。

ゴール3(保健)



母子保健を増進し、あらゆる年齢のすべての人々の健康と福祉を確保することを目指しています。

女性が、望まない妊娠を防ぐことができるようにすることは、女性の健康と権利を守るために重要です。

ゴール4(教育)



2030年までにすべての子供が平等に質の高い教育を受けられるようにすること、高等教育にアクセスできることを目指しています。また、働きがいのある人間らしい仕事や企業に必要な技能を備えた若者・成人の割合を大幅に増加させることもねらっています。

現在日本では、教育機会におけるジェンダーギャップはほぼ存在していませんが、文理選択や学部選択における男女差が生まれているのが現状です。

ゴール8(働きがいも経済成長も)



継続的、包摂的かつ持続的な経済成長は、グローバルな繁栄の前提条件です。この目標は、すべての人々に生産的な完全雇用と働きがいのある人間らしい仕事の機会を提供しつつ、強制労働や人身取引、児童労働を根絶することをねらいとしています。

職場でのセクハラや妊娠・子育てを理由に嫌がらせを受けないようにすることや、男女の給料の格差をなくすことが重要です。

ゴール16(平和と公正をすべての人に)



この目標は人権の尊重、法の支配、あらゆるレベルで良い統治、および、透明かつ効果的で責任のある制度に基づく平和で包括的な社会を目指すものです。

暴力は、人権侵害であり、決して許されません。被害者の身体的・精神的に傷つけ、安心して生活することを困難にします。

